

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職場理念と現場の結びつきが弱い	利用者様の安全を第一に考える。各職員が危機意識をもつとともに、何が危険かをアセスメントして介護にあたることができる。	①ひやりハットの報告書を分析し、1件1件報告者にフィードバックをしていく。②職員会議でひやりハットの分析結果を伝達する。③アセスメント能力や判断力を上げるための記録方法の導入について検討する。	24ヶ月
2	16	ご家族の訪問の時間帯やお仕事の都合等により、職員と行き会えないことから、ご家族の要望や意見等を聞く機会が少ないことがある。	すべてのご家族様に、利用者様の日常の状態やあおばでの生活の様子などの情報を伝達する。	①入居者様に担当者がついているが、その担当制の役割について見直す。②あおば便りの役割を見直し、定期発刊をする。③あおば便り発刊の翌月にご家族の要望や意見を伺う機会をつくる。	12ヶ月
3	3	利用者様が地域で暮らす観点から、地域交流や地域との連携が必要であるが、不十分である。	地域住民との交流を図るためのきっかけを作る。	①あおばを師っていただくために足を運んでもらえるような企画づくりをする。例えば、フリーマーケットや職場体験の学生の受け入れ ②地域住民の皆様にご認知症を理解していただく機会を作る。例えば、出張講義など ③エコマップを作成する	12ヶ月
4	26	ケアプランは計画作成担当者が作成しているが、職員全員がプランを意識している働き方ではない。	ケアプランの目標を達成することの意義を職員が理解し、『チームで作る介護計画』の取り組みから、職員全員が計画作りから目標達成に向けた介護ができる。	①評価の時期にケアカンファレンスを開催する。②利用者の状態の変化があればその都度、カンファレンスを開催する。③日々の状態及びプランを実施した結果や様子を記録に残す。④介護記録の方式について検討する。	12ヶ月
5	35	災害対策の継続が必要である。	BCPを作成したが、その内容に沿って、対策の準備をすすめることができる。	①介護職員で編制した防災組織図に沿って活動をすすめる。②自治会の防災訓練に参加する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。